

おあぐまの室

Vol.2



九十歳
特集

おおくまの宝、第二弾は「九十歳特集」です。

大熊町の宝は人。

そんな思いで作成した第一弾の「若者特集」。

しかし、大熊町の宝は「若者」だけではありません。

この度、大熊町にゆかりのある「九十歳前後」の方々に、
さまざまなお話を伺いました！

長年の経験をもとに紡がれる言葉たちには、
目には見えずとも伝わる力が宿っているよう…。

そんなみなさまの言葉たちをご紹介します！

目次

① ご協力いただいたみなさまのご紹介

坂上	逸さん	佐久間	孝夫さん
秋本	房子さん	吉田	信さん
松永	秀貞さん	杉内	政已さん
浅野	テイさん	阿部	忠光さん
猪狩	丈吉さん	新妻	篤子さん
石田	宗昭さん	佐藤	サトさん
小野田	宗郎さん	内山	トクイさん
中里	典重さん		

⑦ 中里先生が教えてくださいました！ むかしのあそび

⑧ 過去90年の超ざっくり年表

⑨ 大熊町ってどんなところ？

ご協力いただいたみなさまと 印象的だったおはなしをご紹介します！

こんにちは。

おおくままちづくり公社の佐藤真喜子です。

今回「おおくまの宝Vol.2」を作成いたしました。

現役大学生(2020年時点)のわたくしにとって、
人生の大先輩方から紡がれる言葉たちは
それだけで価値のあるものと感じています。

ご協力いただいたみなさまとともに、
とくに印象深かった言葉たちをご紹介します！

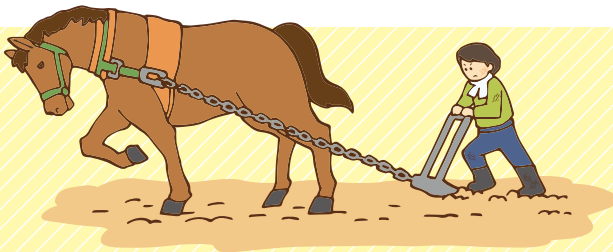
[インタビュー担当者 横川 清子 佐藤 亜紀]



坂上 逸さん



小学校を卒業した頃から
馬耕をするようになった。
女の人はやらない仕事だったので
まわりから驚かれた。
俵を編んだり担いだり
「男の人に負けるか！」と働いた。
昔の仕事は本当におもしろかった。



大熊町は
ほんとうになんでもある。

町の外に出てみると、
ふるさとの良さがしみじみとわかる。

駅にエレベーターがあるのは
双葉郡ではめずらしかった。
それくらい大熊町は裕福。

佐久間 孝夫さん



秋本 房子さん



20歳で野上に嫁いだ。

近所で親戚みたいな付き合いがあった。

野上の諏訪神社の祭りは
にぎやかなものだった。

吉田 信さん



夫沢分校へ通っていた。
当時は子どもがおおかった。

うさぎに網をつけて
競馬のようにして遊んでいた。
夫沢も昔は雪が深かった。

松永 秀貞さん



原発施設内には

アメリカ村があった。

アメリカ人の家族も住んでいて、
英語を教えたりしていた。

『きなこ牛乳』を飲むようになってから
風邪をひかなくなった！



杉内 政巳さん

自然を
うまく利用して生活していた！

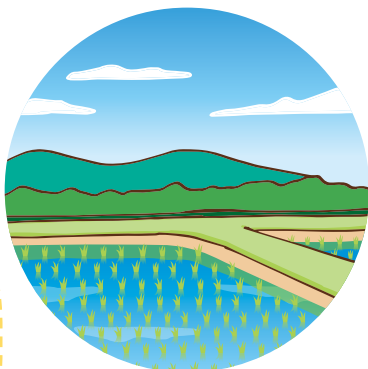
田んぼはすばらしい。

微生物が土地を肥やしている。
みみずが住む土地にしなければならない。

いちばん好きな唄は

「相馬流れ山」

萩のはっぱを
馬の餌にしていた。
家には馬が2～3頭いて、
仔馬のことは
「とねこ/とうねんこ」
と呼んでいた。



浅野 テイさん



阿部 忠光さん

製材を生業としていた。

昔は各家の木を使って家を
建てていた。泊まりがけで製材をし
7～10日泊まることもあった。

バイクが大好きで、ドイツの貴重な
バイクに乗っていた。

猪狩 丈吉さん

学校の授業で
畑仕事(タバコの葉)や
田んぼの手伝いをさせられていた。
国鉄に勤めていた。
みんなで声を掛け合って
歌にして作業していた。
諏訪神社での盆踊りでは
太鼓を叩いていた。



新妻 篤子さん

子どもの頃の楽しみは
稚児鹿舞だった。
10月頃に鮭がのぼってくるのも
楽しみにしていた。
馬車に乗せてもらって
通学していた。



石田家16代目。

昔はジャガイモの味噌汁や
かぼちゃの味噌汁をよく飲んでた。
大根の葉をうるかして(浸して)
塩で味付けしたものをごはん混ぜて
食べるが多かった。
でも好きではなかった。

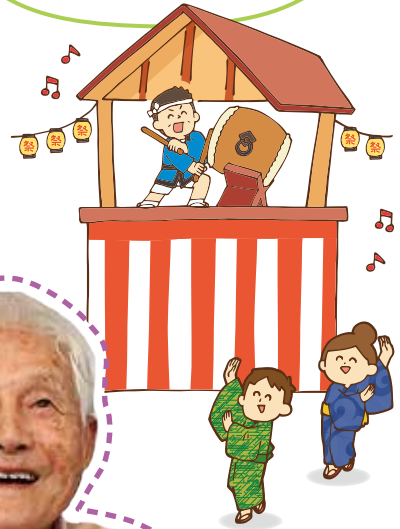
石田 宗昭さん



佐藤 サトさん



頭森公園では
盆踊りをやっていたことがある。
檜を建て、太鼓を叩いていた。
草競馬をやっていたこともある。
大川原にはいろいろなものがあつた。
酒屋、酒屋、醤油屋、質屋、
下駄屋、煎餅屋などなど。



小野田 宗郎さん



双葉中学生時代、
生徒500人が集まる際の
号令係になった。
馬の背から海に向かって
号令の声出しをしていた。
それを聞いた近所の人に
心配された。

内山 トクイさん



大野で
鍛冶屋さんを営んでいた。
景気が良くなったのは
昭和40年頃から。
東電が来て商工会が発足した。
合併した当時の大熊町役場仮庁舎は
パイプづくりで揺れて
怖かった。

中里 典重さん

ハーモニカの達人。

大野幼稚園の園長を9年間務められていました。

わたくしもお世話になったやさしい園長先生です！

「むかしのあそび」を教えてくださいました！



丸ぴん



いまでいう『けんけんぱ』

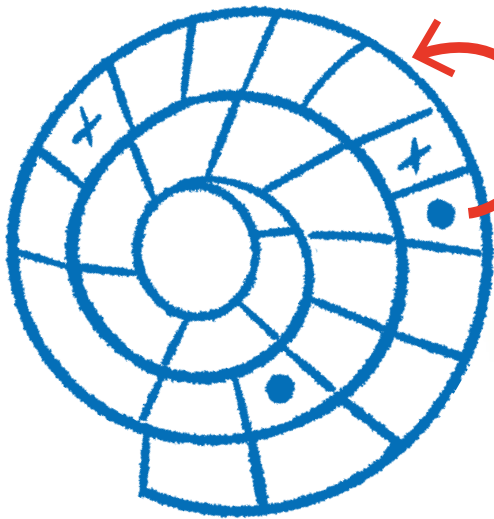
時代によって呼び名に違いがあるとは知りませんでした！

大人になるにつれてこうした遊びをやる機会は
減ってしまうのですが、
こうして名前が変わっても存続しているという事実が
なんだかうれしいですね。

中里先生はこの「丸ぴん」を友だちと一緒に
延々とやっていたそうです。
良い運動になりそう…。子どもの体力おそるべし！



でんでん虫



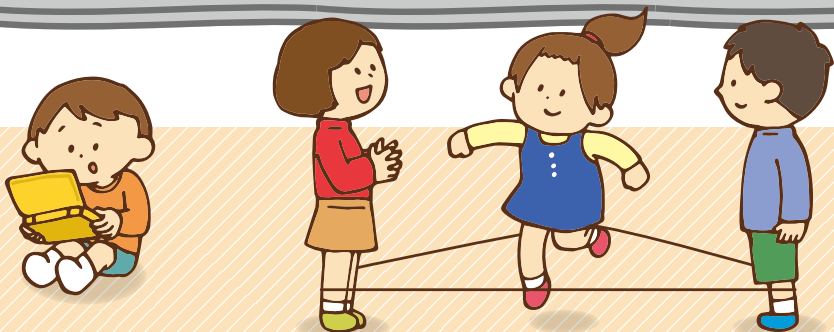
自分の印以外は
飛び越える!!

片脚なので
むづかしい!!

片足とびの遊び。

最初は真ん中の丸まで行き、再びスタート地点まで戻ってくるので1セット。
1セット終了後「自分がいちばん疲れたところ」に自分の印(●や×など)をつける。

自分の印以外は飛び越えなくてはならないので、
だんだんと難易度が上がっていく遊びです。



過去90年の**超**ざっくり年表

1939年 第二次世界大戦 勃発

1941年 太平洋戦争 勃発

1945年 第二次世界大戦 終戦

1954年 大野村と熊町村合併
→ **大熊町誕生**

1971年 福島第一原子力発電所 開業

2009年 アメリカ同時多発テロ事件 発生

2011年 東日本大震災
福島第一原子力発電所事故 発生

2020年 世界中でCOVID-19が流行

福島県大熊町ってどんなところ？

大熊町は、フルーツの香り漂うロマンの里！

大熊町は、自然豊かな住み良い町です。

梨やキウイ、鮭が町の名産品でした。

2011年3月、福島第一原子力発電所の事故による影響で

町全域に避難指示が出されました。

町内には、福島第一原子力発電所が立地しています。

避難生活が長期に渡ったことから、

大熊町民は全国各地にバラバラに暮らしています。

震災から8年が経過した2019年4月10日、

町の一部地域で避難指示が解除されました。

…現在、町での暮らしを再開した町民は約2%。

でも！

全国各地で大熊町に想いを寄せている人が
たくさんたくさん、いるのです。



写真：大野駅周辺（2020年3月5日、大野駅周辺でも一部避難指示が解除されました。）

おおくまの宝、第二弾は

「九十歳特集」です。

大熊町の宝は人。

そんな思いで作成した第一弾の「若者特集」。

しかし大熊町の宝は「若者」だけではありません。

この度、大熊町にゆかりある「九十歳前後」の方々に、
さまざまなお話を伺いました！

長年の経験をもとに紡がれる言葉たちには、
目には見えずとも伝わる**力**が宿っているよう…。

そんなみなさまの言葉たちをご紹介します！